

令和7年度 事業計画

社会福祉法人 中山梅寿会

【施設部門】

- ・指定介護老人福祉施設 なかやま幸梅園
- ・指定短期入所生活介護・介護予防事業所 なかやま幸梅園
- ・短期入所生活介護・介護予防事業所 野中

【ケアハウス部門】

- ・ケアハウス なかやま幸梅園

【調理部門】

- ・なかやま幸梅園 厨房

【看護部門】

【デイサービス部門】

- ・指定通所介護・介護予防事業所 なかやま幸梅園
- ・指定通所介護・介護予防事業所 佐礼谷
- ・指定通所介護・介護予防事業所 野中

【在宅部門】

- ・指定居宅介護支援事業所 なかやま幸梅園
- ・在宅介護支援センター なかやま幸梅園

【訪問介護部門】

- ・指定訪問介護事業所 なかやま幸梅園

【障がい部門】

- ・地域活動支援センター くりのみ
- ・指定相談支援事業所 くりのみ

【基本理念】

日本一あったかいホームを目指します

【基本方針】

1 個人の尊厳

一人の人間としての個性、主体性、可能性を尊重しかけがえのない存在として大切にします

2 信頼性、安全性、安心感の確保

職員自らの専門的役割を自覚し、資質の向上を図ることによりサービスを充実し、信頼性を高めるとともに利用者の安全を守り安心して暮らすことができる環境の確保に努めます

3 地域との連携

地域との交流、連携を通じ、地域福祉の拠点として共に支えあう社会の構築を目指します

【心構え】

- ・あいさつをしよう
- ・思いやりの気持ちをしっかり持とう
- ・入居者、利用者への言葉遣いに気をつけよう
- ・自分の価値観を押し付けないようにしよう
- ・中山梅寿会職員として責任ある行動をとろう

【運営方針】

1 個別援助

- ① 基本的な生活にかかせない3大介護「食事」・「排泄」・「入浴」において、個別ケアに取り組み、当たり前前の生活と一人ひとりの生活習慣を大切にした支援を行う。
- ② 利用者の心身状況及び生活課題等のニーズを把握すると共に、各関係機関等と連携を図りながら、利用者及び家族の希望に沿った安心できるサービスを提供する。

2 機能訓練

- ① 利用者の自立を支援し、機能の維持向上を図るため、機能訓練を計画的かつ、継続的に実施する。
- ② 利用者が有する能力を最大限活用しながら意欲的に活動できる訓練プログラムの開発及び、アクティビティ（集団的に行われるレクリエーション、創作活動等の機能訓練）の機能強化を図る。

3 健康管理

- ① 利用者の心身状況を確認し、本人及び家族、医療機関と連携を図り、健康維持に努める。生活環境の変化による体調不良、混乱を防止するために、必要な健康管理体制を整え、適切な対応を行う。
- ② 感染症については、感染症マニュアルに沿った適切な対応を行う。

4 医療的サポート

- ① 利用者の健康に対する不安を取り除き、安心して過ごせるよう、看護・介護が一体となって、本人及び家族、医療機関等と連携を図り、健康管理を行う。

5 環境整備

- ① 生活場所の変化による混乱が生じる可能性があることを説明し、情報収集することにより、できる限り在宅生活に近い環境の整備を行う。また、利用に際しては、事業所での居室環境について説明を行い、同意を得る。

6 リスク管理

- ① 利用者が安全に過ごせるよう事故予防に努め、事故発生時の適切な対応及び再発防止を行う。

7 防災対策

- ① 火災をはじめ、地震、風水害等災害の発生に備え、緊急時における利用者の生命と安全を確保するため、自主防災活動及び、地域防災組織との連携強化を図る。

8 職員教育と連携

- ① 質の高いサービスを提供するために、自己のスキルアップに努め、資質の向上を図る。
- ② 医療と介護の継ぎ目のないサービスを効果的に利用できるようにする観点から、入院時や退院・退所時に病院等と連絡を取り合い、利用者に関する情報共有を行う。また、障がい福祉サービスの利用者が、介護保険に移行する時やその後も家族を含めた適切なケアプランが作成できるように、障がい福祉制度の相談支援専門員との連携に努める。

9 地域交流

- ① 地域における行事等への参加や、地区住民との交流、ボランティア等の受け入れを通じて、地域コミュニティ機能の充実を図る。

10 地域貢献

- ① 関係機関と連携して、地域社会の中で生活していくための課題を発見し、地域における様々なニーズに柔軟に対応していく。
- ② 地域の一員である自覚を持ち、理解と信頼が得られるように努めると共に、地域福祉（障害）の拠点として開かれた施設を目指す。
- ③ 日頃から地域との関係作りに努め、民生委員、高齢者見守り委員、地域住民との交流を持ち、各事業所が協力しながら地域貢献を行う。

【法人目標】

1. コンプライアンスの徹底を図り、健全な社会福祉法人を継続する。
2. 職員は、常々ご利用者に寄り添うケアが行えているか、不適切ケアが行われていないかを意識して業務に従事し、法人は定期的にチェックすることで維持改善を行いサービスの安定に繋げる。
3. 人権尊重を基本に、身体拘束ゼロ運動の促進、リスクマネジメント等に積極的に取り組む。また定期的な情報交換を実施して利用者、家族、地域、職員との信頼関係の強化を図る。
4. 今後の社会的状況予測及び地域情勢を鑑みて事業の統合を行う。
5. 業務継続計画（BCP）を基に定期的な研修と訓練に取り組んでいくと共に、地域との連携を強化していく。
6. 感染症とうまく共存しながら、地域との繋がりを再構築していくと共に、感染症対策 BCP を基に、定期的に研修と訓練を行っていく。
7. 生産性向上ガイドラインに基づき、業務改善活動の体制構築に取り組んでいく。生産性向上を目指して ICT 機器の導入についても検討していく。
8. 「多角化・多機能化」により経営基盤を強化する。
 - ① 組織の変革と風土の活性化
 - ② 専門性の向上と各事業の知識技術（ノウハウ）の共有
 - ③ 人材確保に向けた採用、定着、離職防止の取り組み強化
 - ④ 福利厚生の充実
9. 制度や報酬見直しにより再度、経営資源（ヒト・モノ・カネ）を把握して収支の良化を図る。
10. 老朽化設備の整備を計画的に実施する。

【部門別目標及び事業所別 年度取り組み】

施設部門

【特養目標】 利用者の笑顔あふれる施設づくり

指定介護老人福祉施設 なかやま幸梅園 （定員：30名）

- ① 入居率 99.0%以上の達成
- ② 個別ケアの機能強化に向けて、定期的なアセスメント及び、プラン実施状況の確認、モニタリング（評価）を踏まえて計画の見直し等、PDCAに沿ったサービス提供を行うと共に、不適切ケアの解消に向けて更なる体制、対策強化に取り組む。
- ③ 生産性向上推進体制促進の取り組みとして、タブレット端末を活用したIT化及び、介護機器、見守り支援機器等のテクノロジー導入に向けてハード、ソフト面及び、ネットワークの構築に向けて具体的な検討を行い、業務の省力化、効率化及び、コスト削減等、将来を見据えて幅広い業務改善を目指す。
- ④ 入居者全体の重度化や容態の急変等、医療ニーズの多様化に対する日常的な医療的管理体制の構築及び、ターミナル期における「介護・医療」の更なる連携強化を図ると共に、併せてスタッフの体調維持、管理支援体制の強化に取り組む。
- ⑤ 新型コロナウイルスをはじめ、各種感染予防等の対策を継続しながら施設全体での行事、イベント等、利用者や家族の希望や、意向に配慮しながら家族会や地域住民等との交流活動に取り組む。

【短期入所共通目標】 在宅生活維持に向けた適切なサービス提供

- ✧ 利用者一人ひとりが安心して在宅生活が継続できるようサービスを提供する。
- ✧ 心身状態や介護方法等の情報を共有し、希望に沿ったサービス提供に繋げる。
- ✧ 医療依存度の高い利用者への適切なサービス提供体制の構築を図る。
- ✧ 災害時に的確な判断で迅速な行動がとれるよう統一した認識と防災意識を深める。

指定短期入所生活介護・介護予防事業所 なかやま幸梅園 （定員：10名）

- ① 稼働率目標 4月～6月（定員10名） 91日稼働率90% 平均9.0人
7月～3月（定員12名） 274日稼働率90% 平均10.8人
- ② 居宅サービス計画を基本として、日常生活の様子や健康状態を観察しながら、生活課題に対するケアを中心に生活機能の維持、向上に繋がるサービスを提供する。
- ③ レスパイトケアや医療的ケアの強い利用希望者に対して家族及び主治医等と連携しながら柔軟な受け入れ体制を維持すると共に、風水害等、災害発生時等に、避難行動や生活に支障がある独居高齢者及び、老夫婦世帯等の一時避難の受け入れ等、地域の福祉施設としての機能の推進を図る。

基準該当短期入所生活介護・介護予防事業所 野中 （定員：6名）

- ① 稼働率目標 一日の平均利用者数4.5人（稼働率75%）稼働日91日
- ② 利用者が住み慣れた地域、生活環境において、可能な限り在宅生活を継続できるように、個々の健康管理及び必要な日常生活の援助を行う。
- ③ 事業所が閉鎖しても、他のサービス利用への移行がスムーズに行えるよう、利用者への説明を行うと共に、関連機関への情報伝達を行う。

ケアハウス部門

【ケアハウス目標】 ケアハウスでの自立生活支援強化

- ✧ ケアハウスでの自立生活が営めるよう、定期的に関係機関と連携を図り、自立支援に向けた体制作り努める。必要に応じて各種福祉サービス等を導入し、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援を行う。
- ✧ 適宜、入居者の状態及び状況を確認し、体調変化等の早期発見と対応を図る。

ケアハウス なかやま幸梅園 （定員：15名）

- ① 入居率 95.0%以上の達成
- ② 定期的に関係機関と連絡を行い、入居希望者の確保に努める。また、希望者の状態、状況等も適宜確認し、空室が生じた際には速やかに入居ができるよう対応する。
- ③ 定期的健康観察を行い、体調の安定に繋がると共に、服薬管理が必要な利用者については、適切に服薬できるよう支援を行う。
- ④ 感染症対策を継続して季節を感じることでできる外出、外食活動を実施する。また、その人らしい生活の実現に向けて柔軟に対応し、生きがいに繋がる支援を行う。

調理部門

【厨房目標】 喜びのある美味しい食事の提供と栄養ケアマネジメントの実施

- ✧ 行事食・イベント食を計画的に実施、充実を図る。
- ✧ 入居者一人ひとりの状態や課題を把握すると共に他職種とも連携して、個別のケアプランに基づいた栄養ケアマネジメントの実践及び、評価を定期的に行う。
- ✧ 近年中に予想される災害・緊急時に対する備えを充実させる。

総合福祉施設 なかやま幸梅園 厨房

- ① コロナが落ち着いてきた状況に合わせ、行事食、イベント食の充実や、おやつメニューの開発など、利用者個々に食べる喜びやQOLの維持向上に繋がる食事内容全般の工夫に取り組む。嚥下調整食（軟菜食・ソフト食）の充実に取り組む。
- ② より良い食事の提供ができるよう、食事委員会と連携し、嗜好調査結果等も含めての意見交換やその他、食事に関する連絡調整を行う。
- ③ 強化栄養ケアマネジメント、経口維持加算については、多職種と連携しながら入居者個々の栄養状態の把握や課題の抽出等、適宜加算対象となる計画作成及び評価等の体制確保に取り組む。そのための研修に参加する。
- ④ 緊急対応マニュアルに沿った備蓄品の確保及び、消費期限のチェック等、適切な在庫管理を実施する。また近年中に予想される災害発生等に備えて、防災訓練を行うと共にアレルギーなど、要配慮者向け食品の備蓄も検討する。
- ⑤ 大型調理関連器機等については引き続き、専門業者と連携して日常的なメンテナンスを実施し、安全かつ適切に使用すると共に、経年劣化等を踏まえての計画的な更新準備を進める。

看護部門

【看護目標】健康観察と医療支援の充実

法人全体看護

- ① 入居者の日常的な健康観察を行うと共に日々の小さな変化を見逃さず、異常を早期に発見することで、より良い医療支援を提供する。また、体調不良時には、嘱託医に報告・相談し、速やかに適切な治療が開始できるよう家族を含めた支援を行う。
- ② ショートステイ・デイサービス等、利用者が安心してサービスを利用できるよう、家族・担当介護支援専門員等と連携しながら支援を行う。また、緊急時には家族、主治医と連携してスムーズに対応する。
- ③ 職員及び、その家族も含めた健康管理、感染対策に関する助言等の支援を行うことにより、健康で安定的な就業環境の構築に繋げる。
- ④ 感染症等に関する情報収集と共有、並びに関係機関との連携をスムーズに行うことにより利用者、職員を支援する。
- ⑤ 服薬管理を徹底し、疾病の悪化予防及び、医療面でのサポートを行う。

デイサービス部門

【デイ共通目標】身体機能の維持・改善、利用者の笑顔あふれるデイサービスへ

- ◇ 利用者一人ひとりの特性等に合わせたサービスの提供をする。
- ◇ 地域住民との交流を図り、地域との「なじみの関係」を築いていく。
- ◇ 災害時に的確な判断で迅速な行動がとれるよう統一した認識と防災意識を深める。
- ◇ 施設内外の研修に参加し、職員のスキルアップに努める。

指定通所介護事業所・介護予防事業所 幸梅園 (定員：30名)

- ① 利用者数の目標 4月～6月 520人/月
7月～3月 750人/月(平均26.5稼働率88%)稼働日：313日
- ② 利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者及びその家族に対し必要な援助を行うことで、デイサービスの継続利用に繋げる。
- ③ エクサボ(体操や脳トレ、歌など)を実施することで、心身機能の維持向上に努める。
- ④ 利用者・家族に負担なくデイサービスが移行できるよう、環境整備や、関係機関との情報共有を図る。

地域密着型通所介護事業所・介護予防事業所 佐礼谷 (定員：18名)

- ① 利用者数の目標 300人/月(平均11.3稼働率63%)稼働日313日
- ② 地域の医療機関や居宅サービス等との連携により、可能な限り在宅での生活が継続できるよう支援する。
- ③ 季節に合わせた調理レクや外出行事、また、利用者個々の能力に合わせたレクの提供を行うことで、満足度の向上を図り、利用者本人の自発的な利用に繋げる。

地域密着型通所介護事業所・介護予防事業所 野中 (定員：16名)

- ① 利用者数の目標 230人/月(平均7.4稼働率47%)稼働日91日
- ② 利用者が住み慣れた地域、生活環境において、可能な限り在宅生活を継続できるように、個々の健康管理及び必要な日常生活の援助を行う。
- ③ 事業所が閉鎖しても、他のサービス利用への移行がスムーズに行えるよう、利用者への説明を行うと共に、関連機関への情報伝達を行う。

在宅部門

【居宅目標】居宅サービス計画の充実

- ◇ 利用者・家族が住み慣れた自宅安心して生活できるようなケアプランを作成する。
- ◇ 達成度を毎月評価し、計画見直しが必要な場合には担当者会議へ繋げる。

指定居宅介護支援事業所 なかやま幸梅園

- ① サービス開始時や事業所変更等に、安心して利用ができるように支援する。
- ② 事業所との連携を密にとり、状況に応じてサービス調整する。

【在支目標】相談窓口と地域支援の充実

- ◇ 伊予市地域包括支援センターの窓口機関の委託を受け、中山町において支援を必要とする高齢者及び家族などの相談に対応し、必要に応じて関係機関との連絡調整や適切なサービスに繋げる等の支援を行う。
- ◇ 地域ケア会議、一般介護予防、家族介護教室、認知症相談、高齢者配食サービス事業、自主事業「がんばる会」などの支援及び実施する。

在宅介護支援センター なかやま幸梅園

- ① 自主事業「がんばる会」について、利用者減少と法人からの補填が続き事業継続は難しい状態にある。そのため、法人内の動向に合わせ通所型サービス A への移行など事業変更を検討、準備する。
- ② がんばる会利用者について、今後の動向に合わせ適切な時期に説明し、個々の希望や状態に合わせてデイサービスや通所型サービス A などへの移行支援や定期的な訪問を行うなどフォローを継続する。
- ③ 中山コミュニティセンターの指定管理業務について、がんばる会終了後も管理業務に支障がないよう検討する。また、介護予防の拠点としての役割が果たせるよう、さまざまな可能性を視野に新たな自主事業を検討、準備する。
- ④ 配食サービスについて、衛生面の観点から昨年の夏は容器を使い捨て容器へ変更、支障はなく衛生面も保たれ厨房スタッフの負担軽減にも繋がったため、使い捨て容器へ変更する。併せて、物価高騰に伴う金額の見直しを行い健全な事業運営を図る。

訪問介護部門

【訪問介護目標】利用者の笑顔あふれる訪問介護へ

- ◇ 利用者の立場に立った適切なサービスを提供する。
- ◇ 住み慣れた家で自分らしく自立した生活が安心して継続できるよう、個々のニーズの把握に努める。

指定訪問介護事業所 なかやま幸梅園

- ① 利用者数の目標 304人/月 1日の平均利用者数10人（稼働日：365日）
- ② ヒヤリハット、事故発生時等の原因の検証、再発防止策の策定並びにスタッフ間での情報共有に努める。
- ③ 毎月事業所でヘルパー会（勉強会）を実施し、職員のスキルアップに努める。

障がい部門

【くりのみ目標】 障害福祉サービスの充実

- ◇ 地域活動支援センターとして、基礎的事業と強化事業を通じた社会参加の機会と居場所として機能を担う。また、交流会やバザーを通じた住民との交流や事業の啓発、地域貢献をする。
- ◇ 一般相談、障害児相談支援、特定相談、地域移行、地域定着等の提供。ライフステージに合わせ、その人が希望する生活に近づくよう必要なサービスの提供や制度の利用支援を行う。
- ◇ 伊予市障がい者計画・伊予市障がい福祉計画・障がい児福祉計画の推進に寄与する。

地域活動支援センター くりのみ

- ① 内職等の開拓と活動の周知を行い、新規利用者の確保に繋げる。年間の平均利用者数 9.5 人を目標にする。
- ② 活動内容にボランティア等への協力を依頼し、活動の充実を図る。

指定相談支援事業所 くりのみ

- ① 記録などの処理、保管方法を整備する。また、相談員が情報を共有できるようにする。
- ② 避難行動要支援者個別避難計画「あい・愛プラン」を基に対象者以外にも緊急時の支援方法について本人、家族、関係機関で情報共有する。